

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 現代陶芸美術館アウトリーチ事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100 (内 103)

E-mail：c21802@pref.gifu.ig.jp

1 事業費 365 千円 (前年度予算額：312 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	312	124	0	0	0	0	0	0	188
要求額	365	140	0	0	0	0	0	0	225
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・地域の小・中・高等学校ばかりでなく、幼稚園・保育園、母親クラブ、老人会等から出張授業・出前講座等のプログラム活用を希望する声がある。
- ・特に、当館の収蔵作品を持ち出して鑑賞学習を行う「学校美術館」に関しては、本年度も複数の学校から申込や実施についての相談があった。
- ・学校現場における「学校美術館」への期待が高く、積極的かつ継続的な実施を求める意見がある。

(2) 事業内容

- 学校美術館の実施
- 学校の教室等に作品を展示し、図画工作や美術の授業時間や休み時間など、身近で本物の作品を鑑賞する機会を設ける。
- 当館職員が鑑賞ガイドや展示作品を活用した鑑賞学習を行う。可能であれば、全校の児童生徒やPTA等への展示開放も行う。
- 現代美術館活用ガイドを配布し、鑑賞のマナー指導の資料や鑑賞のワークシートとして活用する。
- 「出張版M○MCAの小さな図工室」の実施
- 館外施設 (公立図書館・公民館等) を会場として、誰でも気軽に参加し、造形体験をすることができるワークショップを実施する。
- 当館職員の指導による造形ワークショップを通じて、現代陶芸美術館

への関心を深めてもらい、来館意欲の高揚につなげる。

(3) 県負担・補助率の考え方

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	15	出張版MOMAの小さな図工室旅費
消耗品費	30	事務用消耗品 ワークショップ材料費
保険料	6	出張版MOMAの小さな図工室保険掛け金
委託料	314	学校美術館輸送（作業員・美専車・保険料）
合計	365	

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

【学校美術館】

「学校美術館」を実施し、校内に作品を展示することで、児童・生徒に鑑賞授業の場をもたらし、当館への関心を高める。学校での鑑賞学習を通して鑑賞マナーを学び、美術作品鑑賞への関心を高める。さらに実施学校の地域にも「学校美術館」実施の広報をすることで、当館の取組を理解していただく。関心をもった子どもたちや地域の人々が、当館の企画展・コレクション展に興味をもって来館してもらえるようにする。陶磁器の歴史や作家の優れた作品に触れる中で、地域や陶磁器産業への理解を深め、郷土愛をはぐくむ一助とする。

【出張版M○MCAの小さな図工室】

館外施設（公立図書館・公民館等）を会場として、誰でも気軽に参加し、造形体験をすることができるワークショップを実施する。当館職員の指導による造形ワークショップを通じて、現代陶芸美術館への関心を深めてもらい、来館意欲の高揚につなげる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
学校美術館体験 児童生徒数	104 (R1)	— (H28)	— (H29)	104 (R1)	300 (R3)	34.6%

※目標は1校300人としているが、実施する学校の希望により変動する。

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

【学校美術館】

- ・ 本年度も複数の学校から実施希望、実施相談があった。
- ・ 各務原市立緑苑小学校での実施予定
（令和2年11月2日実施予定）
全校児童 168名を対象に実施の予定

(前年度の成果)

- ・ 土岐市立濃南中学校を会場として「学校美術館－M o M C Aが学校にやってきました！－」を開催した（令和元年11月27・28日）
- ・ 11月27日（水）には、濃南中学校全校生徒（32名）を対象とした対話による美術鑑賞の授業を実施した。
- ・ 11月28日（木）には、隣接する濃南小学校全校児童（73名）を対象とした対話による美術鑑賞の授業を実施した。
- ・ 濃南中学校の保護者をはじめとした校区の方々にも公開し、展覧会を鑑賞していただくことで、当館への関心を深めていただくことができた。



(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価)	【学校美術館】 <ul style="list-style-type: none">・ 「学校美術館」の体験から当館への関心をもった子供たちが親子で来館することが度々あった。・ 「学校美術館」ばかりでなく出張授業で鑑賞体験をした子供たちの来館も増えた。当館のプログラムの体験を通じて当館への関心を深め、来館意欲の高揚へつながっている。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価)	【学校美術館】 <ul style="list-style-type: none">・ 「学校美術館」の体験から当館への関心をもった子供たちが親子で来館することが度々あった。・ 「学校美術館」ばかりでなく出張授業で鑑賞体験をした子供たちの来館も増えた。当館のプログラムの体験を通じて当館への関心を深め、来館意欲の高揚へつながっている。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価)	【学校美術館】 <ul style="list-style-type: none">・ 昨年度、学校美術館用の展示ケース及び看板・キャプション等を作製した。このケースを会場の広さに合わせて設置することで、スムーズに展示作業を進めることができた。・ 看板・キャプションの設置によって展覧会場らしい雰囲気をつくることができた。

(今後の課題)

- ・当館の収蔵作品を持ち出すため、運送費用が高いため、「学校美術館」を年間複数実施することは難しい。
- ・実施校での予定会場の状態によりセキュリティの問題があり、学校美術館をどこでも開催できるわけではない。そのため実施校が限られる場合があることが課題である。

(次年度の方向性)

【学校美術館】

- ・当館の収蔵作品を直接、間近で鑑賞できる貴重な機会となっており、実施を希望する学校で継続的に実施していきたい。

【出張版M○MCAの小さな図工室】

- ・「M○MCAの小さな図工室」は、当館のスペースを活用して、誰でも、気軽に、短時間で簡単に表現したり体験したりできるワークショップである。この取組について、外部教育施設担当者より、館外での実施要請があった。これに応じ、数か所で「出張版M○MCAの小さな図工室」を試行的に実施してきた。今後、この取組を当館の教育普及事業の一つとして位置付け、積極的に館外施設で実施し、多くの参加者に当館への理解を深めてもらう機会としていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	